

メガイアワビの種苗生産

(栽培漁業種苗生産事業)

曾田一志

1. 研究目的

中間育成用種苗、放流用種苗および養殖用種苗として殻長8～15mmサイズ30万個の生産を目指して生産し、配布する。

2. 研究方法

(1) 平成20年度採卵分（中間育成～出荷）

中間育成には、平成21年2～3月にかけて剥離、選別した88万個の稚貝を用いた。屋外の10m水槽10～16基を用い、1基当たり塩ビ製の黒色シェルターを22枚敷いた。飼育海水（生海水）の換水率は毎時1～2回転とした。遮光は行わなかった。餌料にはアワビ用配合餌料を週3回与えた。また動物性蛋白質を使用していない飼料も使用した。加えて、中間育成初期には生ワカメ、5月以降は生アラメを週1回程度、飽食量給餌した。底掃除は5～6日に1～3回全排水で行った。適宜選別を行い、各生産回次の大型個体を残すようにした。出荷の約2～3日前に剥離し、選別、計数（重量換算法）を行い、ホタテ貝殻に付着させ出荷した。

(2) 平成21年度採卵分（採卵～珪藻飼育）

親貝は、平成19、20年導入親貝に加え7～9月にJFしまね浦郷支所で約70個を購入し、親貝養成して採卵に用いた。採卵は10月下旬～11月上旬にかけて、1週間毎に3回行った。採卵誘発は前日から夜間止水法を行い、採卵日の朝からUV照射海水と海水加温（自然水温+5℃程度）を組み合わせで行った。卵は洗卵した後、1tの孵化槽2基に収容し、幼生を3～4日間飼育した後、採苗に用いた。採苗は屋内の6m水槽7基と3m水槽4基、屋外10m水槽1基を用いて、上げ採苗を行い、幼生を波板に付着させた。約1週間の屋内飼育の後、屋外の珪藻飼育では、10m水槽へ移動した。飼育水は、生海水を使用した。搬出後は、珪

藻を維持するため採苗枠の上下反転を週2回行い、採苗後、約2週間目から10日に1回程度の全排水掃除、注水口側と排水口側のホルダーの入替えをして、珪藻の管理を行った。また、施肥として、イオンカルチャー（不動テトラ社製）を規定の分量を添加した。

3. 研究結果

(1) 平成20年度採卵分

中間育成開始から終了まで、大規模な摂餌不良は生じなかった。

(2) 平成21年度採卵分

採卵には延べ62個の親貝を用い、総産卵数は3,279万粒で、受精率95～98%、採苗には2,291万個の幼生を使用し、約1ヶ月後の付着数は約312万個、付着率は13.6%であった。また、1回目の剥離選別時（3月中旬）で240万個を計数した。本年は珪藻飼育時の採苗器の上下反転の頻度を例年の倍以上に上げたこと、イオンカルチャーを使用したことにより珪藻の状態が良かったため、付着後1ヶ月後から1回目の剥離選別時までの歩留まりが高かった（77%）。以後順調に生育している。

4. 研究成果

中間育成後、県内全域の沿岸に放流が行われる予定である。